

# 桶狭間後の家康解説

岡

徳川みらい学会 国学院大平野氏講演 静岡



講演する平野国学院大兼任講師  
＝静岡市清水区のマリナート

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」は19日、本年度の第3回講演会（静岡商工会議所共催）を静岡市清水区のマリナートで開いた。家康の家系に関する研究などを行っている国学院

大兼任講師の平野明夫氏が「桶狭間後の家康と信長」と題して講演した。1560年の桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に敗れた後、家康がどう行動したのかを中心に解説した。家康は、義元の後継の氏真が弔い合戦をしないことに業を煮やし、信長と同盟を結び、大名として自立したとされてきたが、平野氏は「もっと早く家康は自立をしていた」と指摘した。

スクリーンに当時の書状の文言などを映しながら持説を展開。桶狭間の戦い直後に家康が当時の將軍足利義輝から馬を所望され差し出したことなどが「御内書」という文書にあることなどを早期の家康自立の根拠とした。平野氏は講演で書状など史料を根拠として歴史を読み解く重要性を強調していた。（清水支局・坂本昌信）